

4 . バブル崩壊後、若い女性の雇用環境が悪化

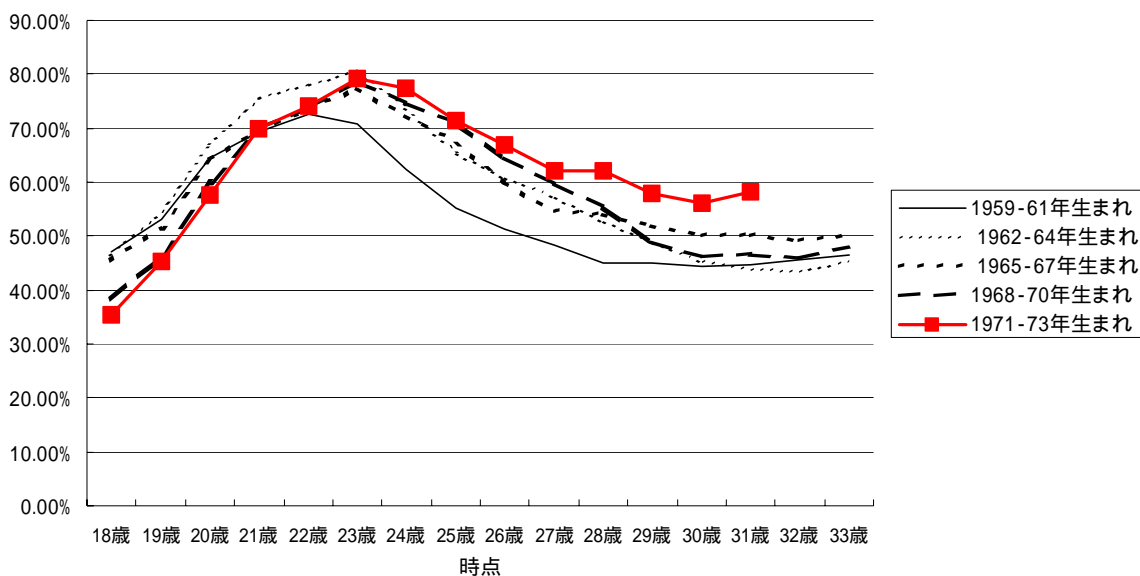
4 - 1 バブル崩壊を境に、若い女性の非正規雇用者が増加

若年失業率の増加、フリーターの増加が大きな社会問題となっている。図表 12 は、出生年次別にみた各年齢に達した時点での女性の雇用就業率のグラフである。1962 年以降に生まれた 4 つのグループの就業率をみると、いずれも 23 歳時点の 80% をピークとし、その後なだらかに減少している山型という共通点がある。

ところが、非正規の雇用（パート、アルバイトなど）に限定して同様に就業率をグラフにすると（図表 13）、とくに 1971-73 年生まれの非正規雇用就業率の水準が高くなっており、それ以前に生まれたグループとの間に大きな断絶がある。1971-73 年生まれの非正規雇用就業率は 25 歳以降 20% を越え、27 歳から 31 歳まで 25% 前後で推移しているのに対し、ほかの 4 グループはおおむね 15 ~ 20% の間で推移しており、5% ポイントほどの差がある。

1971 年生まれの女性が 20 歳を迎えた 1991 年は、バブル崩壊直後の年である。したがって、1971-73 年生まれの女性の非正規雇用が急増しているのは、単に若い女性の仕事に対する考え方が変わったからではなく、やはりバブル崩壊という経済要因が大きく影響していると推測できる。

図表 12 出生年次・年齢別の雇用就業率



図表 13 出生年次・年齢別の非正規雇用就業率

